

入試情報

医学部医学科推薦入試「ふるさと枠」に関する入試情報は、広島大学のホームページをご覧ください

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi/>

ふるさと枠の受験を検討している方を 対象としたセミナーを実施します！

広島大学医学部および広島県は、県内の地域医療およびふるさと枠制度について
理解を深めることができる「広島県地域医療セミナー」を開催しています。

セミナーの受講がふるさと枠入試の出願要件となりました。

ふるさと枠の受験を検討している方はぜひご参加いただくようお願いいたします。

今年度の開催日

2026年 6月27日(土)、9月26日(土)、10月24日(土)
【第二次申込締め切り】9月26日(土)

詳細は以下のサイトをご覧ください。

<https://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html>



広島大学

入試に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当：広島大学霞地区運営支援部学生支援グループ(医学部担当)

電話：082-257-5049

その他ふるさと枠全般に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当：広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座

電話：082-257-5894

<http://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html>



広島大学地域医療システム学講座

検索



広島県

奨学金制度に関するお問い合わせ

〒730-8511 広島市中区基町10-52

担当：広島県健康福祉局医療政策課

電話：082-513-3062



広島県医師育成奨学金

検索

ふるさとの医療を担う！

2027年度 広島大学医学部医学科

ふるさと枠のご案内



広島大学



広島県

広島大学長メッセージ

地域医療を担う医師の育成について

今日、わが国における急速な少子高齢化の進行や大都市圏への人口集中は、地方の活力低下を招いています。広島県も人口の県外流出などが顕著になっていますが、特に中山間地域において医療を担う医師や、県内の特定の診療科医師の不足が大変深刻な状況にあります。厚生労働省による令和4年度の無医地区等調査においても、広島県は依然として全国で2番目に無医地区数が多い県となっております。

こうした中、広島大学は、県内唯一の医師養成機関として、平成21年から広島県と連携し、県内に優秀な医療人材を輩出するための「ふるさと枠入試」を設けています。これまで302人が入学し、そのうち191人が巣立っており、現在、県内の公的医療機関等で研修や実地臨床に励んでいます。

ふるさと枠で入学した学生には、通常の医学教育カリキュラムに加え、毎週1回開かれるふるさとセミナー、夏や春の地域医療実習、冬の合宿など多くの行事があります。これらを通じて先輩や後輩らと世代を超えた強い絆が生まれ、心身ともに大きな成長が期待でき、より充実したキャンパスライフを過ごすことができます。

このふるさと枠では先進的な医療にも取り組みます。「総合医」や「専門医」になるのも基本的には自由です。広島の医療に強い関心を持ち、広島県内で医療人として活躍したい、医療を通じて地域社会に貢献したいという熱い志を持つ方を広島大学は全力で応援します。

どうぞ奮ってご応募いただきますようお願いいたします。



広島大学長 越智 光夫

医学部長メッセージ

地域医療を志す皆さんへ

地域医療の充実、これからの日本の医療にとって大変重要な課題です。特に中山間地域や離島を含む広い地域を抱える広島県においては、地域の医療を支える医師の育成が強く求められています。

広島大学医学部では、広島県と連携し、「ふるさと枠」制度を通じて地域医療を担う医師の育成に取り組んでいます。ふるさと枠の学生には、医学の基礎から臨床までしっかりと学ぶとともに、地域医療の現場に触れるさまざまな教育の機会を用意しています。研修病院も豊富であり、それぞれのキャリアプランにあわせた多様な選択が可能です。

これまでに多くのふるさと枠の卒業生が県内各地で医療に携わり、令和8年度は、広島大学医学部ふるさと枠を卒業し初期臨床研修を終了した若手医師139名が県内各地の医療機関に着任し、地域の人々の健康を支えています。

広島大学のふるさと枠には、医学の学びだけでなく、人や地域と向き合う医療に関心を持つ学生が集まっています。地域医療を支えたいという思いを持つ皆さんが、この制度を通じて大きく成長し、将来それぞれの道で活躍されることを心から期待しています。



広島大学医学部長 中野 由紀子

Table of Contents

- 02 広島大学長メッセージ
- 医学部長メッセージ
- 03 広島大学医学部医学科ふるさと枠とは？
ふるさと枠募集事項（概要）／入学から卒業後の進路
- 04 「広島県医師育成奨学金」について（概要）
- 05 4年間勤務する中山間地域指定医療機関マップ
- 06 中山間地域指定医療機関とふるさと枠勤務状況
中山間地域以外の医療機関
- 07 一般枠とは違う「ふるさと枠」独特の取り組み Part I
ふるさとセミナー（略称：ふるセミ）／夏実習／冬合宿／春実習
- 09 一般枠とは違う「ふるさと枠」独特の取り組み Part II
知事激励会／新入生歓迎イベント／同窓会・卒業生面談
面談／進路説明会／卒業生送別会／講座教授からのメッセージ
- 11 ふるさと枠 現役学生座談会
「ふるさと枠のメンバーは「広島の地域医療を支えたい」という同じ夢をもっていた」
- 13 広島県内各地で活躍中のふるさと枠医師からのメッセージ
「地域で学び、地域で生きる医師を目指しませんか？」
庄原赤十字病院 國原 蒼士 先生（8期生2022年卒）
「現地医療機関からの声」
庄原赤十字病院 院長 鎌田 耕治 先生
- 15 広島県内各地で活躍中のふるさと枠医師からのメッセージ
「医師としての自分の将来像を具体的に描きやすいふるさと枠」
安佐市民病院 神原 貴大先生（2期生2016年卒）
「医師不足による診療科の休止や医療機関の閉鎖は常に身近な問題だった」
市立三次中央病院 今岡 亜理紗先生（4期生2018年卒）
「治療だけでなく、より患者さんの生活に近い部分のサポートも必要に」
厚生労働省老健局 松岡 美咲先生（4期生2018年卒）
「ふるさと枠でできた、年代や科を超えた繋がりがプラスに」
市立三次中央病院 西本 祐美先生（6期生2020年卒）
- 17 広島県キャリア形成プログラム
広島県知事メッセージ／「広島県キャリア形成プログラム」とは
キャリアプランの概要
- 18 FQA

【写真協力・提供】庄原観光ナビ

一番必要とされている 医師を育てる制度です

広島県内には医師不足のため満足に医療を受けることができない地域がたくさんあります。広島大学医学部ふるさと枠はそのような地域の医療を守るため、広島大学と広島県が協力し運営している医師養成制度です。広島県内の高等学校からの推薦により入学選抜を行い、広島大学医学部在学中の6年間は広島県から奨学金が貸与されます。医師免許取得後は9年間、広島県内の公的医療機関に勤務し、そのうち4年間は医師不足が顕著な中山間地域の公的医療機関、あるいは知事の指定する診療科に従事することが義務となっています。この義務を完遂することで奨学金の返還が免除されます。

ふるさと枠入学者は通常の医学教育カリキュラムに加えて、毎週1回のセミナー、夏期休暇中の地域医療現地実習、冬の場合合宿学習会、春の現地実習など多くの行事に参加します。これにより広島県の地域医療の魅力や課題を深く理解するとともに、学生同士の縦横の絆を深めます。卒業後は広島県民、特に医療に恵まれない中山間地住民の命と健康を守る重要な役割を担います。

【写真説明】
中山間地域指定医療機関のひとつである府中北市民病院での夏実習の様子。学部生として中山間地域医療の最前線を見学する機会は極めて重要

ふるさと枠募集要項（抜粋）

◆ 募集人員

医学部医学科 18名（令和8年度実績）

◆ 出願資格

- 広島県内の高等学校又は中等教育学校を入学選抜実施前年度（本学を受験する前年度）の4月1日以降に卒業した者及び入学選抜実施年度（本学を受験する年度）の3月31日までに卒業見込みの者で、高等学校又は中等教育学校の長が「（本学が指定する）推薦要件」について責任を持って推薦でき、合格した場合に入学を確約できる者
- 本学卒業後は、「広島大学ふるさと枠卒業医師に対するキャリア形成プログラム」に沿って医師業務に従事し、広島県内の地域医療に貢献する意思のある者
- 入学選抜実施年度（本学を受験する年度）の4月1日以降に開催された広島県地域医療セミナー（広島大学医学部・広島県主催）を修了した者

◆ 出願書類（全員提出が必要な書類等）

写真、調査書、志望理由書、推薦書、誓約書、広島県地域医療セミナー受講証明書（入学選抜実施年度《本学を受験する年度》に開催されたものに限る）

◆ 入学選抜方法

出願書類、面接、大学入学共通テストの得点を総合的に評価して合格者を決定

その他の項目は、11月下旬に HP で公表予定
https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi/yoko_doga/yoko_anchor17



広島県地域医療セミナー【修了必須】

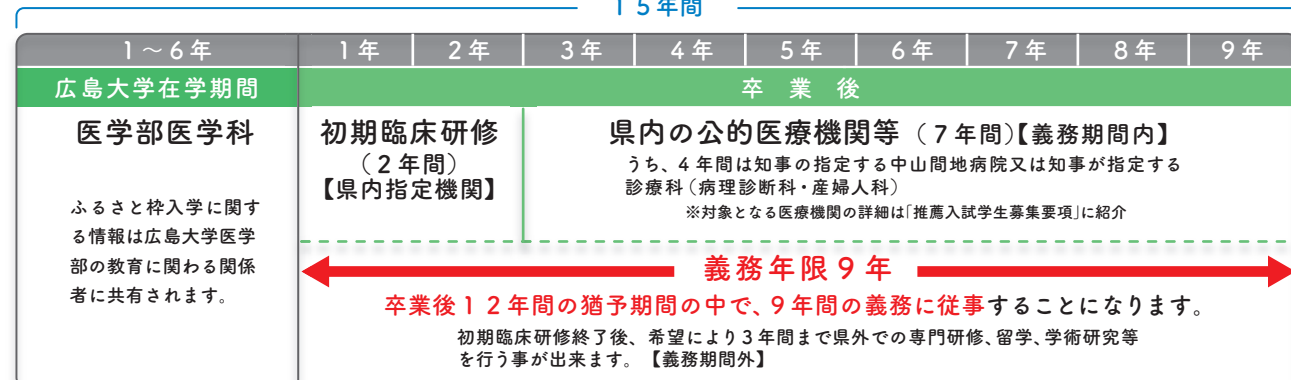
中山間地域で医師として働く意味を一緒に考えてみませんか？

ふるさと枠に出願を検討している受験生、保護者の方はぜひご参加いただき、趣旨に賛同される方に受験して頂きたい制度です。



入学から卒業後の進路

ふるさと枠制度
15年間



「広島県医師育成奨学金」について（概要）

（広島県健康福祉局医療政策課）

- 広島大学医学部ふるさと枠へ入学された方は、大学在学中の6年間に、広島県から「広島県医師育成奨学金」の貸与を受けることとなります。
- 大学卒業後から一定の期間、県内の地域医療を守るための指定医療機関での勤務を行っていただくことで、奨学金の返還は全額免除となります。
- 県内での勤務は、「広島県キャリア形成プログラム」に沿って行っていただきます。（17頁参照）

◆ 貸付額 ◆ 月額20万円（6年間の総額：1,440万円）

※奨学金の貸付けには、貸付日の翌日から、貸付期間の終了月の末日（6学年の3月末日）までの日数に応じて、民法で規定する法定利率で計算した利息が付きします。（R8.4月現在の法定利率：年3%）

◆ 貸与期間 ◆ 6年間（大学の通常の修業年限（通算6年間）を超えることはできません）

◆ 返還免除 ◆ 大学医学部の卒業後から12年間（貸付期間の2倍に相当する「返還猶予期間」）までに、別に定める基準（キャリアプラン）に沿って、次の要件1・2を共に満たすことで、奨学金（利息を含む。）の返還が、全額免除されます。

【要件1】

貸付期間の1.5倍に相当する9年間（必要従事期間）を、知事が指定する広島県内の公的医療機関等※1において医師の業務に従事する。

【要件2】

上記9年間（必要従事期間）のうち、4年間（広島大学病院等県内での初期臨床研修2年を除く）を、次の①・②のいずれかで従事する。

- ① 知事が指定する県内の中山間地域等の公的医療機関※2
- ② 公的医療機関等の知事が指定する診療科（病理診断科・産婦人科※3）

※1、※2、※3については、今後、規則改正等により変更となる場合があります。

＜上記の要件を整理すると、次のとおりです。＞

◎ 貸付期間：6年間

◎ 返還猶予期間（免除要件の履行期限）：卒業後12年間

◎ 必要従事期間（9年間）：県内初期臨床研修（2年）＋県内公的医療機関（7年、うち①又は②が4年）

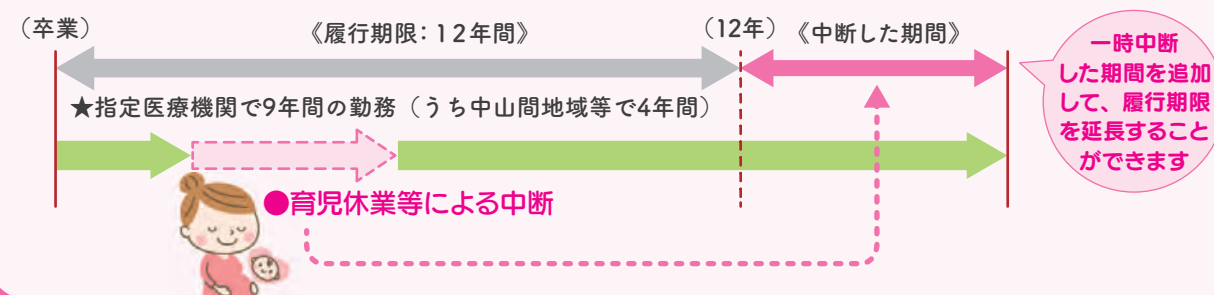
卒年後	-	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務等	(6学年)	初期臨床研修(2年)【県内指定機関】		3～12年目の10年間で、7年間を県内公的医療機関等で勤務、そのうち4年間は、中山間地域等の指定機関（又は指定診療科）で勤務（任意の3年間を使って、県外研修や留学などの機会を得ることが可能）									

※卒業後の県内勤務は、「広島県キャリア形成プログラム」に沿って行います。

◆ その他 ◆

出産・育児等による勤務中断の取扱い

出産・育児（又は家族介護）を理由として、指定医療機関での勤務を一時中断（休業・離職等）した場合は、本人の希望に応じて、当該中断等した期間を返還猶予期間に追加（猶予を延長）することができます。



4年間勤務する中山間地域指定医療機関マップ

※県内の公立診療所も広島県知事の指定する医療機関に含まれます。

中堅病院
中小病院

中山間地域指定医療機関と ふるさと枠医師勤務状況（卒後3年目以上）

※臨床研修は広島県内の公的臨床研修病院で行います。
※卒後3年目以降は広島大学各診療科への入局を原則とします。
※中山間地の4年間は総合医を原則としますが、医療機関からの要望があれば専門科医として勤務します。

令和8（2026）年度

診療科名等	中山間地域指定医療機関											小計	中山間地域以外の医療機関	計	
	中堅病院				中小病院						公立公的診療所				
	公立みつぎ総合病院	市立三次中央病院	庄原赤十字病院	J A吉田総合病院	公立下蒲刈病院	府中北市民病院	府中市湯が丘病院	安芸太田病院	公立世羅中央病院	三次地区医療センター					因島医師会病院
総合内科・総合診療科			2			1						3	3	6	
消化器内科		2	2					1		1		1	7	9	16
呼吸器内科		1							1				2	2	4
内分泌・糖尿病内科		2						1					3	1	4
腎臓内科		1	1								1		3	2	5
脳神経内科	1				1			1	2				5	2	7
循環器内科		1	3							1			5	5	10
リウマチ・膠原病科		1											1	1	2
血液・腫瘍内科		1											1		1
皮膚科		2		1									3	1	4
精神科				1			1						2	3	5
外科		1											1	1	2
消化器・移植外科									1				1	1	2
腫瘍外科		1							1				2		2
外科（外科専攻医）														3	3
整形外科		1		1					1				3		3
形成外科														3	3
腎泌尿器科		1							1				2	2	4
脳神経外科		1											1	2	3
放射線治療科														1	1
麻酔科		2							2				4	1	5
救急集中治療科		2						1					3	6	9
リハビリテーション科	2								1	1			4	5	9
眼科														1	1
その他														2	2
小計	3	20	8	3	1	1	1	4	10	3	1	1	56	57	113
産科婦人科(知事指定)		4											4	10	14
病理診断科(知事指定)															
小児科（知事指定）		2											2	10	12
計	3	26	8	3	1	1	1	4	10	3	1	1	62	77	139
(参考)令和7年度(R7.4.1時点)	3	24	5	5				5	11	2		1	56	74	130

上記表以外の中山間地域指定医療機関（中小病院）

府中市市民病院、西城市民病院、神石高原町立病院

中山間地域以外の医療機関

広島市民病院(広島市)、広島赤十字・原爆病院(広島市)、舟入市民病院(広島市)、広島大学病院(広島市)、県立広島病院(広島市)、広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院(広島市)、広島市立北部医療センター安佐市民病院(広島市)、安芸市民病院(広島市)、県立二葉の里病院(広島市)、福山医療センター(福山市)、福山市民病院(福山市)、広島県立福山若草園(福山市)、中国労災病院(呉市)、呉医療センター・中国がんセンター(呉市)、済生会呉病院(呉市)、三原赤十字病院(三原市)、尾道市立市民病院(尾道市)、JA尾道総合病院(尾道市)、済生会広島病院(坂町)、広島西医療センター(大竹市)、JA広島総合病院(廿日市市)、東広島医療センター(東広島市)、賀茂精神医療センター(東広島市)、県立安芸津病院(東広島市)、広島県立総合リハビリテーションセンター医療センター(東広島市)

※赤字は現在、「ふるさと枠」医師が勤務中の医療機関です。(2026.04現在)

ふるさとセミナー

(略称：ふるセミ)

実施時期：通年・毎週水曜日

ふるセミは毎週水曜日にふるさと枠生で企画・運営するセミナーです。医師のお話を聞いたり、地域医療について理解を深めることのできるゲームをしたり、学年を超えた「ふるさと枠」同士での交流など、ふるさと枠でしかできない体験をすることができます。



学生のコメント

昨年度は幹部学年としてふるセミの企画を考えることがあり、とても良い機会になりました。3年生企画も楽しく参加出来たのと、先生方のお話も色々聞いて有意義なふるセミだったなと改めて思いました。(4年生)

3年生企画で学年を超えて交流したり、ふるさと枠や自治医科大学出身の先生の講演を聞いて将来の働き方を考えたりすることができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、中山間地域の診療所や病院の先生の話を知ることができ、広島地域の医療の問題点や、それに対してどのように取り組んでいるのかを知ることができたので良かったです。(4年生)

普段はあまり関わることのない学年の人や同級生とグループを組んで、一緒に弁当を食べながら企画を楽しんだり、地域医療についての理解を深めることができるのは、ふるさと枠ならではの魅力だと思います。(4年生)

今年から3年生企画を考える学年となりました。過去先輩方が行ってきた企画はどれも素晴らしいもので、新しく考えるのがとても難しいですが、どうしたらみんなが楽しく交流して学習することができるかを考えることは意外にも楽しく、企画力がついたように感じます。(3年生)

夏実習



実施時期：夏季休暇中 1泊2日

3～4人のグループに分かれて中山間地の病院に赴きます。医療従事者や患者様、地域住民の方々との関わりを肌で感じることができます。また、一年生から実習に参加できるため、早い段階から将来のビジョンを明確にすることができます。



学生のコメント

実習先の先生をはじめ、医療従事者の方々との出会いがあることが魅力だと思います。また、自分で実習先を選べるので、県内のさまざまな病院、診療所を学生のうちに見ることができます。(4年生)

夕食会で自治医科大学出身の医師の方から、学生時代の話や医師として経験した地域特有の話をお聞かせいただきました。地域で働く医師としての生活が垣間見えた楽しい時間でした。(3年生)



冬合宿



実施時期：冬季休暇中 1泊2日

全員参加で開催場所が毎年変わります。講演、交流、グループワークを通じて地域医療の理解を深めます。



学生のコメント

講演では、医師としてのリアルなお話から学生時代のお話まで多岐にわたり、自身の将来のイメージができたという学生が多くいました。(3年生)

夕食は立食形式で行われ、先生方や県の職員の方、学生同士で楽しく交流することができました。2日目は学生企画で、映画鑑賞と映画に関するグループワークを行いました。班によって意見が様々で、とても有意義でした。(2年生)



春実習



実施時期：学年末休暇 希望者のみ

1年生から4年生までの希望者が参加する病院実習です。夏実習と比べて少人数で行くため、より深い学びができ、実習内容に医療機関ごとの特色が出るのも面白いポイントです。



学生のコメント

私が伺った医療機関は総合診療科が強いと言われているところで、総合診療科の1日に密着して、朝のカンファレンスから救急外来の様子まですべて見ていただくことができました。(3年生)

先生方や患者さんとの距離が近く、どれだけ大切にやりがいがある仕事かというのを肌で感じられるのも春実習の良いところだと思います。(4年生)



一般枠の医学生とは違い、ふるさと枠では実習や合宿のほかにも独自の取り組みがあります。

知事激励会

新入生

3月末に広島県庁で行われます。県知事をはじめ、多くの広島県関係者から激励の言葉をいただきます。

学生のコメント

緊張していた部分もありましたが、気を引き締めるきっかけにもなりました。(2年生)

自分が故郷のために活動する一員であるという実感がより深くなりました。(2年生)



【写真説明】2026年3月に行われた知事激励会

新入生歓迎イベント

毎年

知事激励会の後、新1年生～新4年生でボウリング大会を開催します。入学後は、学生企画のレクリエーションで親睦を深めます。

学生のコメント

これから6年間で共にする同級生や在校生の先輩方と交流を深めました。スーツでのボウリングは少し戸惑いもありましたが、先輩や同級生との交流のきっかけにもなりました。学校での生活のことや、勉強面のことなどを先輩に聞く新入生の姿も見られました。(2年生)

入学後の学生企画のレクリエーションは、新入生や在校生だけでなく、地域医療システム学の先生方も参加されます！普段の大学生活とは違った一面を見ることができたり、これまで話したことなかった同級生や先輩と仲良くなるきっかけになったりと好評のイベントとなっています！(5年生)



同窓会 卒業生面談

適宜

不安や環境、進路の悩みなど、卒業後も相談でき、解決に向けてサポートできる環境を用意しています。



面談

1・4・6
年生

学生が抱える大学生活での不安や、環境、進路の悩みなど、様々なことを相談できる環境を用意し、解決に向けて話を積み重ねます。



進路説明会

4・5
年生

進路説明会では初期研修先の病院のことや、将来的なキャリアプランについても詳しく説明します。



卒業生送別会

全員

大学、県庁、地域医療支援センターなど関係者一同が集まって、盛大に卒業をお祝します。



2009年の制度開始から現在まで、**191名**の卒業生を輩出しています

各学年**18名**の学生が在籍中です

2015年～2026年累積ふるさと枠医師国家試験合格率は**97.0%**です
(広島大学医学部医学科は88.4%です)

講座教授からのメッセージ

みなさんの学生生活を応援します

我々地域医療システム学講座の教員はふるさと枠学生の担任として、皆さんが充実した学生生活を過ごせるよう、進路に夢を持てるよう、一人一人の思いを聞きながら手厚い教育を行っています。また卒業後もキャリア支援を通じて、一人一人の卒業生と継続的に関わっております。一年生として入学してきた初々しい学生が、立派な医師となって地域住民の命を支え、無事に義務年限を修了していく姿を見ることができるのは、我々にとってこの上ない幸です。これからふるさと枠の輪に加わってくれる、新しい仲間をお迎えすることを、教員一同大変楽しみにしております。

広島大学地域医療システム学講座教授 松本 正俊



ふるさと枠のメンバーは、 「広島県の地域医療を支えたい」という 同じ夢を持っている

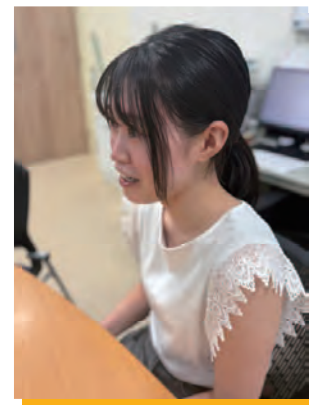
ふるさと枠では、将来中山間地域で医療に携わる姿を具体的に描けるよう、入学直後から独自のプログラムが始まります。毎週の「ふるさとセミナー（ふるセミ）」に加え、長期休暇中には夏実習や冬合宿など、地域医療を実体験できる機会が数多く設けられています。その学びと魅力について、ふるさと枠の学生さんに尋ねてみました。



沼田 義輝 さん(5年生)
広島県呉市出身



田中 恭祐 さん(3年生)
広島県呉市出身



青木 なのは さん(3年生)
広島県府中市出身 (※学年は座談会当時)

現場での挑戦と、将来像を描く時間

司会 夏実習はどうでしたか？

沼田さん 実習先ごとに経験できることが全く違うのが魅力です。総領診療所では住民を対象とした健康講座を企画しましたが、実際は段取り通りにいかないことも多くて。でも先生から「学生のうちは失敗できることが強み。次に活かせばいい」と言っていたので、前向きに捉えられるようになりました。

田中さん 僕は沼隈病院に行きました。院長先生の「地域医療こそ最先端」という言葉が印象的で、地域医療に対する見方が大きく変わりました。地域だからこそできる医療があると実感しました。

司会 冬合宿の講演も刺激的でしたね。

青木さん ふるさと枠の先輩医師のお話を聞いて、将来像がより具体的になりました。年齢の近い先生方が地域で活躍している姿を知り、「自分もこうなりたい」と自然に思えました。

沼田さん 自ら道を切り開いてこられたキャリアの話聞き、将来は自分次第でいくらでも広げられると感じました。



交流の中で深まる、地域とのつながり

青木さん 夏実習では外来見学や問診を体験し、患者さんともたくさんお話ししました。夜の食事会では、働き方やプライベートの話まで聞けて、地域医療が生活と密接につながっていることを実感しました。

司会 冬合宿の懇親会ではどうでしたか？

青木さん 院長先生方に自分から話しかけました。学生のうちから直接お話しできる機会は本当に貴重で、「ぜひ将来うちに」と声をかけていただき、期待されていることを感じました。

沼田さん 実習でお世話になった先生が覚えていてくださり、温かく迎えていただきました。地域とのつながりが続いていくことが嬉しかったです。

田中さん 「学生生活を頑張れなさい」と励まされ、地域の一員として見てもらっていると感じました。



同じ夢を持つ仲間と歩む未来

司会 最後に、ふるさと枠を目指す受験生へ、しっかりメッセージをお願いします。

沼田さん まず伝えたいのは、「本当に歓迎します」ということです。ふるさと枠には、先輩や先生方、地域の方々など、多くの支えがあります。皆さんが温かく見守り、成長を応援してください。その期待はプレッシャーではなく、「一緒に地域を支えていこう」という前向きなエールです。医師としてだけでなく、人としても成長できる環境が整っています。

青木さん ふるさと枠には、「広島県地域医療を支えたい」という同じ思いを持つ仲間が集まっています。目指す方向が同じだからこそ、悩みも喜びも共有でき、自然と支え合える関係が築けます。実習や講演を通して将来を具体的に描ける機会も多く、「地域医療に関わりたい」という気持ちがあれば、その思いを大切にしながら大きく育てていける環境です。不安があっても大丈夫。仲間と一緒に、一歩ずつ進んでいけます。

田中さん 僕自身、人の輪に入るのが得意なタイプではありませんでした。でも、ふるさと枠に入ってみると、同じ夢を持つ仲間が自然と声をかけてくれて、気づけばその輪の中にいました。ここには、互いを認め合い、支え合う雰囲気があります。地域医療に少しでも関心があるなら、その気持ちを信じて挑戦してほしいです。将来どんな医師になりたいのかを真剣に考えられる場所が、ここにはあります。そして、その挑戦を心から応援してくれる人たちが待っています。

広島県地域医療を支えたい——。
その共通の夢が、仲間を結び、地域とつながり、未来へと続いています。あなたが思い描く「理想の医師像」は、どんな姿でしょうか。その問いに、仲間とともに向き合える場所が、ここにはあります。

地域で学び、地域で生きる医師を目指ませんか？

「地元で医師になりたい」という思いを胸にふるさと枠を選んだ私だからこそ伝えたい。
挑戦してみれば、必ず未来は開けます。



小学生の頃から「医師になりたい」

私は呉市の焼山という所で生まれ育ちました。父が医療従事者であったため小学生の頃から医師になりたいという目標を持っていました。地元愛が強かったため中学生の頃には広島大学医学部を志望するようになりました。中学・高校では吹奏楽部に所属しサクソとクラリネットを吹いていました。高校生のときにジャズの全国大会に出場し特別賞を受賞したのは良い思い出です。高校のときに先輩や先生から「ふるさと枠」という選択肢を教えてもらい、意識するようになりました。私が住んでいた焼山は呉市と熊野町の境の山の中にあり、祖父母の家も東広島の河内町という田舎であったため、中山間地の医療に関わることに違和感が無かったこともあり、最終的にふるさと枠を受験し、入学することができました。

医療現場に触れる機会が多いふるさと枠制度

広島大学での6年間はよく遊んでいました。どちらかというと講義に熱心に取り組むタイプではなかったため、科目の本試験に落ちて追試験を受けないといけなかった場面が多々あったのですが、「ふるさと枠の仲間」と「高校の同級生」という2大コミュニティに助けられて、なんとかストレートで卒業することができました(笑)。

一方で、ふるさと枠の活動はとても良い経験になりました。毎週の「ふるセミ」で仲間との絆を深めることができましたし、休暇中の実習では医療現場に触れる機会が多くありました。私は高校生の頃から在宅看取りで有名な北広島町雄鹿原診療所の東條環樹先生に憧れていたのですが、ふるさと枠の実習で直接お会いし、往診に同伴することもでき、感激しました。こういった活動を通して良い医師になりたいというモチベーションを高めることができました。



腎臓内科
國原 蒼士 先生
(ふるさと枠8期生 2022年卒)

呉市出身、広島学院高校卒、
2022年：広島大学卒
2022年～2024年：市立三次中央病院臨床研修、
2024年～：庄原赤十字病院腎臓内科勤務

地域の最前線、三次で研修医に

卒業後の臨床研修は三次中央病院で行いました。ふるさと枠の臨床研修は広島市など都市部で行っても問題ないのですが、私は希望して中山間地の三次中央病院を選びました。理由は地域の最前線の病院のほうが実力を磨けますし、ふるさと枠の先輩がたくさんいて教えてもらいやすい環境だと考えたからです。

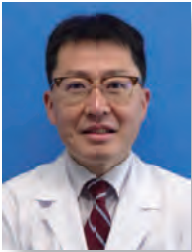
研修医の数が少なかったので、たくさんの患者さんを診ることができ、希望の診療科を自由にローテーションさせてもらいました。病院の福利厚生も素晴らしかったです。三次の市街地が私の故郷の焼山よりも遥かに都会だったのが意外でした。

腎臓内科の専門医に

2年間の臨床研修後は腎臓内科を自分の専門として選びました。腎臓内科は腎臓という臓器を通して全身を診ることができ、また透析という治療を介して腎不全の患者さんの一生に寄り添うことができる魅力的な診療科です。

現在私が勤務している庄原赤十字病院の医師数は三次中央病院の半分以下で、スタッフ同士の風通しがよく、院長先生にも気軽に相談できてしまうようなアットホームな雰囲気があります。ふるさと枠を中心に若手医師や同年代のコメディカルの仲も良く、よく一緒に遊びに行っています。ただ遊ぶお店は三次よりも圧倒的に少ないです(笑)。

現地医療機関からの声



庄原赤十字病院 院長 鎌田 耕治 先生

國原先生は、専門の腎臓領域だけでなく、幅広く内科全般の診療、無医地区診療など地域に根差した医療を行っています。医療人として、また社会人としても日々確実に成長し、当地域になくてはならない存在となっています。

「自信を持って挑戦して」

医師はとてもやりがいのある仕事です。私は人とコミュニケーションするのが好きなタイプなので、地域医療は自分にすごく向いていると感じています。

ふるさと枠を選ぶということは、大学6年間および卒業後9年間の計15年間を決定付ける大きな決断になります。正直、私も入学後に「本当にふるさと枠で良かったのか」と悩んだことがありました。

ですが、こうして中山間地に来て、楽しく仕事できているという事実を踏まえると、この選択が自分にとって正しかったのだらうと思っています。私のようなタイプの人で、ふるさと枠の受験を考えている皆さんには「自信を持って挑戦して」と言ってあげたいです。

医師としての自分の将来像を 具体的に思い描きやすい「ふるさと枠」



安佐市民病院 病理診断科

神原 貴大 先生（2期生 2016年卒）

【勤務先】県立広島病院（初期研修）→広島大学病院
→安佐市民病院（2024年度 義務終了）

ふるさと枠の学生は地域医療を主軸に、広島の医療への理解を広い視点から深める機会に恵まれています。目指すべき医師像を具体的に想定できるきっかけも多く、医師として広島で働きたいけれど、思いばかり先行して不安だ、という方にこそお勧めです。そんなふるさと枠2期生の私は、“僻地”同様人手不足な、“病理医”の道を選択しました。病理学は、患者さんの診療に直結する組織診断の他、解剖や研究も業務の一貫であり、興味の尽きない領域です。診療科はさておき、医師としてどのように広島に関わりたいか、ふるさと枠でじっくり考えてみませんか？同志として働ける日を楽しみにしています。

治療だけでなく、より患者さんの 生活に近い部分のサポートも必要に



厚生労働省老健局

松岡 見咲 先生（4期生 2018年卒）

【勤務先】広島大学病院（初期研修）→広島市立リハビリテーション病院
→広島大学病院→公立みつぎ総合病院
→公立世羅中央病院→厚生労働省（義務中断中）

初期研修終了後、広島市立リハビリテーション病院、広島大学病院、公立みつぎ総合病院、公立世羅中央病院で勤務しました。
中山間地域では医療・福祉資源が限られている地域で生活している患者さんも多く、患者さんの希望を叶えるためには、病気の治療だけでなく、より患者さんの生活に近い部分のサポートも必要となります。訪問診療などで実際の生活環境を見たり、患者さんや家族さんの話を聞いたりしながら、患者さん一人ひとりに合った診療を行えるように心がけています。現在はこれまでの経験を活かし、厚生労働省で勤務しています。

医師不足による診療科の休止や 医療機関の閉鎖は常に身近な問題だった



市立三次中央病院 小児科

今岡 亜理紗 先生（4期生 2018年卒）

【勤務先】広島大学病院（初期研修）→中国労災病院
→広島市立広島市民病院→広島大学病院→市立三次中央病院

私は広島県の中でも最も多くの無医地区を抱える庄原市で生まれ育ちました。大学進学を機に故郷を離れるまでの間、医師不足による診療科の休止や医療機関の閉鎖は常に身近な問題でした。
そのような中、地域医療に携わりたいという決意をもった仲間と出会うことが出来たことは、大変心強いことでした。すでに多くのふるさと枠の医師が地域で活躍する姿を見ると僻地出身者としては感謝の思いもあり、私自身もそれに続けるように日々の診療に取り組んでいきたいと思っています。

ふるさと枠でできた、 年代や科を超えた繋がりがプラスに



市立三次中央病院 産婦人科

西本 祐美 先生（6期生 2020年卒）

【勤務先】広島大学病院（初期研修）→広島赤十字・原爆病院（初期研修）
→JA広島総合病院→市立三次中央病院→広島大学病院
→呉医療センター・中国がんセンター→市立三次中央病院

広島大学病院・広島赤十字原爆病院で初期研修を行い、以降は産婦人科医として広島県内の様々な病院で研修をおこなっています。
医師として働いてみると、ふるさと枠出身の先生方の多さに驚かされます。どの診療科に進んだとしても、ふるさと枠でできた年代や科を超えた繋がりは医師として働いていくにあたって大きなプラスになると思います。広島のこと大好きな皆様が来てくださることを心待ちにしています。

広島県キャリア形成プログラム

広島県知事メッセージ

ふるさと枠をめざす皆さんへ



広島県知事
横田 美香

広島県では、総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」を策定し、「全ての県民が、質の高い医療・介護サービスを受けることができ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる広島県の実現」を目指して取組を進めています。

山間部や島嶼部等からなる中山間地域が広い本県では、地域の医療をどのように守り・支えていくかが大きな課題となっています。

そのような中、「ふるさと枠」制度によって、これまでに191名が卒業し、現在、臨床研修を修了した義務年限内の医師139名が県内各地で勤務しています。そのうち61名が中山間地域の医療現場で、また26名が医師不足の特に著しい診療科で活躍するなど、県内地域医療の現場において大きな役割を担う存在となっています。

また、本県では、広島大学に「地域医療システム学講座」を設置し、地域医療を担う医師の育成に精力的に取り組んでいます。

是非、みなさんも、高い志と熱い想いを持って「ふるさと枠」を目指していただき、本県の地域医療の活性化を担う人材として活躍されることを願っています。

「広島県キャリア形成プログラム」とは

「広島県キャリア形成プログラム」は、卒業生の能力の向上や、目指す診療科の専門医認定が得られるように、勤務先やローテート方針等を定めた標準的な育成計画です。卒業生は、必要従事期間が終了して奨学金の返還免除を受けるまでの間、このプランに沿って県内の地域医療に貢献しながら、併せて能力の向上を図ります。

キャリアプランの概要

1 ふるさと枠卒業医師の所属

卒業生は、初期臨床研修（2年間）修了時までに、次のコース（①～③）のいずれかを選択します。

	選択コース	補足等
A 広島大学病院 各診療科等所属コース	① 中山間地サブコース	下記以外の診療科（26診療科※1） （診療科毎の標準的なプランを用意）
	② 知事指定診療科サブコース	病理診断科・産婦人科 （標準的なプランを用意）
B 地域専攻コース ※個別の診療科への所属を希望しない方	③ 中山間地サブコース	「広島大学地域医療システム講座」及び 「広島県地域医療支援センター」がサポート して具体プランを作成

2 中山間地域等指定機関での勤務について（配置ガイドライン）

- 中山間地域等指定機関を「中堅病院」（4機関）と「中小病院」（10機関）に分類※2し、中山間地域での4年間の勤務のうち、「中小病院」には、原則2年、少なくとも1年以上は常勤として勤務します。（②知事指定診療科サブコース選択者は除く）
- 中山間地域での勤務は、総合医（総合診療医・一般内科医・一般外科医）としての勤務を原則としますが、中山間地域等指定機関から要望がある場合は、専門科医として勤務します。

①中山間地サブコースの診療科構成（※1）や、中山間地域指定機関の分類（※2）は、後年において変更となる場合があります。

【例】広島大学病院・①中山間地サブコース「総合診療科」標準的キャリアプラン

卒後年	勤務先等
1年	初期臨床研修（県内指定機関）
2年	
3年	大学病院
4年	中山間地域の中堅病院 内科・総合診療科勤務
5年	中山間地域の中小病院 内科・総合診療科勤務
6年	大学病院 社会人大学院入学（希望者） 総合診療専門医試験
7年	中山間地域の中堅病院 内科・総合診療科勤務
8年	中山間地域の中堅病院 内科・総合診療科勤務 内科専門医試験（希望者）
9年	関連病院（指定機関） 内科・総合診療科勤務
10年	【必要従事期間終了】
11年	
12年	

（大学院入学年度は希望に配慮）

FAQ

Q 広島大学ふるさと枠の学生は、他の学生と違う学部教育を受けるのですか？

A 全ての授業・実習から、地域医療実習を含む臨床実習に至るまで、全く同じ内容を学習します。それとは別に、ふるさと枠学生を対象としたプログラムがあり、定期的なミーティングや休暇中のセミナーなどを実施します。ふるさと枠学生に対しては、在学中に積極的に国内外での見聞きを広め、クラスを引っ張っていく存在になれるよう、指導致します。

Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、自分の行きたい「科」を選ぶことが出来るのですか？

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」に記載してある返還免除の条件2の①には、自分が将来目指す「科」について、特に制限は書かれていません。ただし、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますので、研修中は、原則として総合医としての修練が必要です。これらの総合医としての経験は、その後総合医としてキャリアを歩む場合はもちろん、専門医を目指す場合も本人の一生の財産となります。

Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、いわゆる「専門医」を目指すことは出来るのですか？

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」の返還免除の条件2の②に「知事が指定する診療科」という文言があります。これはまさに「専門医」に該当します。つまり県が「深刻な医師不足」と判断した科であれば、その科を選択することができ、その場合、勤務地は中山間地に限定されません（現在は病理診断科と産婦人科が指定されています）。次に「知事が指定する診療科」に行かない場合、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますが、中山間地域勤務期間終了後、専門医を目指し始めることは問題ありません。また中山間地域勤務期間中も、広島大学の地域医療システム学講座と連絡をとりつつ、目指す専門医に関わる広島大学の診療科に所属し、将来の専門医取得に向けて準備を始めることが出来ます。ほぼすべての診療科がふるさと枠卒業生のためのキャリアプランを用意しています。

Q 9年間は、先進的な医療技術の勉強ができないのではないですか？

A そのような心配を聞きますが、大丈夫です。まず、「総合医」を目指す場合、広島大学の地域医療システム学講座・総合診療科をはじめとした全診療科・卒後臨床研修センター、県立広島病院を中心とする県内の公的医療機関等が支援し、最先端の「総合医」を育成します。次に「専門医」を目指す場合、広島大学の診療科が中心となって全面的にバックアップします。今後、情報回線を利用したテレ・メディスンも発達し、その活動を支えます。この「ふるさと枠」は、私たち納税者・県民によって支えられる制度であり、総合医であれ専門医であれ、広島で活躍する優秀な医師を輩出することを目標と考えています。

Q 予想されるコースについて実例を挙げていただけますか？

A 例えば、「初期臨床研修（県の指定医療機関）2年間」→「県内の公的病院3年間」→「県の指定する中山間地域等の公的医療機関等4年間」といったコースが実例として挙げられます。すなわち一般医学科生と大きな違いはないのです。